



祝 令和6年 香美町二十歳のつどい

「令和6年香美町二十歳のつどい」が1月7日、香住区中央公民館で行われました。民法の改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられています。本町では引き続き、当該年度中に20歳を迎える人を対象として「二十歳のつどい」を開催することとしています。

今年の対象者は、平成15年4月2日から平成16年4月1日までの間に生まれた町内在住者および町内の小中学校に在学したことがある人、計158人（香住区103人、村岡区40人、小代区15人）。このうち130人（香住区82人、村岡区33人、小代区15人）が、色とりどりの振り袖や真新しいスーツに身を包み、式典に出席しました。式典前には、久しぶりに会う友人と再会を喜び合い、思い出話に花を咲かせたり写真を撮ったりと旧交を温めていました。

式典で浜上町長は「皆さんは、高校生であった18歳のときから、公職選挙法や民法の改正により大人としての権利が認められてきました。一方で、社会を構成する一員としての義務と責任も果たしていかなければなりません。複雑多様化していく社会の中で、大人としての自覚を十分に持って、自分の進む道を見つけ出し、臆することなく夢や志に向かって力一杯歩んでください」とエールを送りました。

また、「柔軟で斬新な発想とエネルギーが豊富な行動力、地域を愛する熱い思いを、ふるさと香美町の未来のために注いでくれることを期待しています。離れて活躍している皆さんも、ふるさと香美町を心のよりどころとして、誇りと愛着を忘れることなく、自信を持って歩まれることを願っております」と、香美町を担う人材となってもらおうよう期待しました。

その後、二十歳を代表して藤本聖也さん（小代区）と田野星華さん（小代区）が記念品を受け取り、南垣斗磨さん（村岡区）が誓いの言葉を述べました。

南垣さんは、これまで過ごしてきた20年を振り返り「いつもそばにいてくれた友達、学校の先生、そして家族に、私が今ここに立てていることを心から感謝します」と関わってきた人たちへ感謝。続けて「私は今、大学で教師を目指して日々勉学に励んでいます。また、アルバイトで水泳の指導員をし、実際に子どもたちに教えています。このような経験も生かしながら、大学でしっかりと学んで知識を深め、一人でも多くの人に寄り添い、頼りにされるような教師を目標にこれからも頑張っていきたいと思えます。二十歳のつどいを迎え、新たな心構えと一人の大人としての責任を持ち、一度きりの人生を充実したものにできるように、一日一日を一生懸命生きていくことをお誓いします」と力強く決意を新たにしました。



誓いのことばを述べる
南垣斗磨さん



司会を務めた(左から)藤川菜皿さん、亀村未歩さん、茨柚月さん



式典後には、アトラクションとして3区の実行委員会が作成したフォトムービーが上映されました。



浜上町長から記念品を受け取った田野星華さんと藤本聖也さん



令和6年香美町二十歳のつどい

